

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2026年度	開講キャンパス			開設学科		環境園芸学科／食品開発科学科			
科目名称	SPARCプロジェクト実践演習Ⅰ（実践型）						授業形態	講義・演習		
科目コード	162020	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	牧田 直子、長田 隆、山口 健一、陳 蘭庄、岡崎 善三								ICT活 用	○
授業概要	この授業では、地域社会で多様な人々と協働していくために必要な基礎的な力を身につけることを目的としています。 この目的の達成のために、県内の企業や団体等で業務に従事する企業実習を10日程度行います。業務への従事は受入企業等での業務体験にとどまらず、企業等の抱える課題に対し、改善策や解決策の提案を行うことが求められます。提案にあたっては、学内で学んだ知識・能力と実習中に得た情報等を活用しながら、受入先の社員・職員の方々と協働して提案内容を構築していきます。 実習前には事前授業として「自己理解」「企業分析」「課題解決」「ビジネスマナー」等を学んだ上で企業実習に臨みます。また、実習後は、事後授業として実習での経験を振り返り「経験の言語化・成果発表」および「成果報告レポート」の作成等を行い、大学での学びや研究に接続していきます。									
関連する科目	地域キャリアデザインⅠ（キャリア）、地域キャリアデザインⅠ（地域）、地域キャリアデザインⅠ（国際）、地域キャリアデザインⅠ（プロジェクト設計）、地域キャリアデザインⅠ（総合知）、地域キャリアデザインⅡ									
授業の進め方 と方法	具体的な授業の流れ（詳細は初回授業の際にお知らせします） 1回目～3回目は、各大学の教室同士をオンラインにてつなぎ、全体に向けたレクチャーをはじめ、他者との対話・コミュニケーションを通して考えを深めていくワーク等を行います。初回の授業では、以降活用していくMicrosoft Teamsを活用するための環境整備の時間も作る予定です。活用方法に明るい人は、困っている人がいたら積極的に手助けをしてあげてください。 4回目は、南九州大学宮崎キャンパスにて、合同企業説明会の形式で実習プログラムの説明会を行います。皆さんの実習を受け入れてくれる企業の担当者の方から、実習プログラムの詳細についてご説明をいただきますので、興味のあるプログラムを提示している企業から積極的にお話を聞いてきてください。 5回目までの間は、実習参加企業を決めるための選考期間です。各自で企業に履歴書を送付し、オンライン面接を受けていきます（履歴書の作成等については授業内でを行います）。 5回目～7回目は、オンライン上で授業を行います。各自で事前に指定された授業ページ（Microsoft Teamsを活用）にアクセスし、受講【オンライン】※指定された教室へ集まってください。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション ・授業の目的、内容等についての伝達、および使用するICTツールなどの準備。 ・自己理解と目標設定 ・企業実習に行く目的（働く意義や意味を考える）の言語化。 【オンライン】※指定された教室へ集まってください。									
授業計画 【第2回】	自己分析、自己PR・ガクチカの考え方 ・履歴書等を作成する上で必要な、自己PRやガクチカ（学生時代に力を入れたこと等）の考え方、まとめ方のレクチャー。 授業時間外の学修 【オンライン】※指定された教室へ集まってください。									
授業計画 【第3回】	履歴書対策、志望動機のとめ方 ・履歴書等を作成する上で必要な、志望動機のとめ方や、一般的的なルールのレクチャー。 ビジネスマナー 【対面（南九州大学宮崎キャンパス）】 企業実習プログラム説明会 ・実習を受け入れてくれる企業の担当者の方から、実習プログラムの詳細を聞き、志望先候補を選択。 授業時間外の学修 ・（授業前）事前に配布された実習プログラムシートの内容をもとに、興味のあるプログラムを選択しておく 【オンライン】※指定された教室へ集まってください。各自PCからTeams会議へ参加します。（イヤホン必須）									
授業計画 【第4回】	課題解決の思考法① ・Microsoft Teamsを活用したオンライン授業で、大学学部学科を超えたグループワークを実施。 ・ワークを通して、企業・業界研究、課題分析および解決策構築の手法や考え方について学ぶ。 【オンライン】※指定された教室へ集まってください。各自PCからTeams会議へ参加します。（イヤホン必須）									
授業計画 【第5回】	課題解決の思考法② ・グループメンバーと協働して解決策をブラッシュアップする。 ・次週の授業で発表できるように準備を行う。 【オンライン】※指定された教室へ集まってください。各自PCからTeams会議へ参加します。（イヤホン必須）									
授業計画 【第6回】	課題解決の思考法③ ・グループごとに課題解決策について発表。 ・実習参加に際しての案内等を行う。 授業外の学修 企業実習 ・実習先企業等にて実習を行う（8日～10日間）。 ・実習内容や準備物等については、事前に実習先の担当者に確認すること。 ・実習日程や場所等は実習先企業によって異なります。事前に担当者に確認すること。									
授業計画 【第7回】	授業外の学修 企業実習 ・実習先企業等にて実習を行う（8日～10日間）。 ・実習内容や準備物等については、事前に実習先の担当者に確認すること。 ・実習日程や場所等は実習先企業によって異なります。事前に担当者に確認すること。									
授業計画 【第8回】	授業外の学修 企業実習 ・実習先企業等にて実習を行う（8日～10日間）。 ・実習内容や準備物等については、事前に実習先の担当者に確認すること。 ・実習日程や場所等は実習先企業によって異なります。事前に担当者に確認すること。									
授業計画 【第9回】	授業外の学修 企業実習 ・実習先企業等にて実習を行う（8日～10日間）。 ・実習内容や準備物等については、事前に実習先の担当者に確認すること。 ・実習日程や場所等は実習先企業によって異なります。事前に担当者に確認すること。									
授業計画 【第10回】	授業外の学修 企業実習 ・実習先企業等にて実習を行う（8日～10日間）。 ・実習内容や準備物等については、事前に実習先の担当者に確認すること。 ・実習日程や場所等は実習先企業によって異なります。事前に担当者に確認すること。									

授業計画 【第11回】	企業実習 ・実習先企業等にて実習を行う（8日～10日間）。 ・実習内容や準備物等については、事前に実習先の担当者に確認すること。 ・実習日程や場所等は実習先企業によって違います。事前に担当者に確認すること。
授業計画 【第12回】	授業外の学修 企業実習 ・実習先企業等にて実習を行う（8日～10日間）。 ・実習内容や準備物等については、事前に実習先の担当者に確認すること。 ・実習日程や場所等は実習先企業によって違います。事前に担当者に確認すること。
授業計画 【第13回】	授業外の学修 企業実習 ・実習先企業等にて実習を行う（8日～10日間）。 ・実習内容や準備物等については、事前に実習先の担当者に確認すること。 ・実習日程や場所等は実習先企業によって違います。事前に担当者に確認すること。
授業計画 【第14回】	授業外の学修 【オンライン】※指定された教室に集まってください。 各自PCからTeams会議へ参加しています。（イヤホン必須） 実習成果報告会 ・個人ごとに参加した実習の概要、得た学びや気づきを、今後のキャリアにどう活かしていきたいかについて発表を行う。
授業計画 【第15回】	授業外の学修 【オンライン】※指定された教室に集まってください。 各自PCからTeams会議へ参加しています。（イヤホン必須） リフレクション ・実習への参加を経て得た自身の変化や成長を、事前授業で立てた目的・目標と比較して具体的に捉える。 ・自身の変化について、他の学生との対話を通して深化させ、俯瞰的に捉え言語化する。
授業の到達目標	① 異なる背景を持つ他者と協働するために求められる姿勢や考え方を自分の言葉で言語化できる。 ② よりスムーズな協働を行うために、自身の気づきを次の実践（授業内や企業実習）の自身の行動に活かすことができる。 ③ 企業実習を経て得られた学びや経験を、今後の大学生活（勉強・研究・学外活動等）への活用方法を見出すことができる。 【SPARC未来共創教育プログラム】で育成する資質・能力 〈繋ぐ力・構想実現力〉
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	各回に記載
授業時間外学習【復習】	各回に記載
課題に対する フィードバック	
評価方法・基準	リフレクションコメント 学内授業後に提出するリフレクションコメントの内容を評価する。 20% 授業の達成目標①、② 企業実習日報 企業実習後に提出する日報の内容を評価する。 20% 授業の達成目標①、② 提出物 授業内で作成する課題（履歴書等）の内容を評価する。20% 授業の達成目標① 実習成果レポート 企業実習で得た経験を網羅的にまとめるレポートの内容を総合的に評価する 40% 授業の達成目標①、②、③
テキスト	
参考書	
備考	本授業は全15回の講義において、75%以上の出席が必要（＝12回以上の出席）です。 ①本授業は、授業の特性（宮崎大学の学生との受講、企業担当者との連絡等）上、MicrosoftTeamsを主なコミュニケーション手段として活用しますので、各自運用できるように準備をしてください。